

# 学校評価シート（自己評価）令和7年度分

ひさみ幼稚園

## 1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや生活を展開し、人間として一番大切な非認知能力を身につけられる保育を目指している。

## 2、具体的な目標や計画

それぞれの評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育環境の改善、教育内容の改善に主体的かつ意欲的に取り組んでいくことを重点項目とする。それらを通じて、保育の質を高めて、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

## 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
愛情あふれる保育の実践と保育者の専門性向上	A	保育現場における深刻な課題として、「不適切保育」「幼児虐待」というワードが挙げられる。そこで、本園では「適切な保育」を目指して、「愛情あふれる保育」を全教職員間で共通理解を図り、その目標に向かって取り組んできた。また、日々の保育を振り返りや保育計画の見直しなどを積極的に行ってきた。さらに、園外の研修会に参加したことで、先生たちの個々における能力の向上が見られた。今後も保育の専門性や保育技術を高められるように、教職員全体で取り組んでいきたい。
動物飼育の研究と実践	A	本園で注力している保育における動物飼育に、さらに磨きをかけてきた。昨年度は、目白大学と連携して、『園内におけるチャボの飼育環境』の研究を新しく進めることができた。そして、その結果を踏まえて実践に役立てることができた。また、「こども動物自然公園」と連携事業を行うことができた。現地に赴き、飼育員からうさぎやモルモットとのふれあい体験や動物飼育の話聞くことで、子どもたちの飼育の意欲も高めることにつながった。今後も引き続き、研究を重ねて、よりよい飼育環境を探究するとともに、本園の核となる動物飼育に力を入れていきたい。

安全管理	A	日本でいつ何時起こり得るかわからない地震や火災への対応は保育現場でも必須である。そのため、避難訓練や安全教育を強化してきた。園内研修も実施して、教員一人ひとりの防災・防犯意識を高めていった。
保護者向け子育て講座の実施	B	“乳幼児期の子育ての大切さ”を保護者に発信してきた。具体的には、著名な外部講師を招き、「親と子の愛着形成」をテーマにして、父親の子育て講座を実施した。また「絵本がもたらす親子の絆」をテーマにして、副園長と親交のある絵本作家を招いて講演を行い、保護者の養育力を高めることにつなげた。しかし、アンケートによると、父親の中には低評価の意見もあった。また、絵本講座の参加率も低く、一部の保護者に限られるという課題も見られた。
預かり保育の充実	A	幼稚園として、保護者のニーズへの対策として預かり保育の拡大や充実化が必要となる。そこで、保育室と教員の増加を図った。その分、多くの子どもに目が行き届くようになり、特に利用者の多い夏休みは、よりよい保育が実現できた。但し、補助教員の仕事量の増加を招いたため、今後うまくバランスを取りながら向き合っていきたい。

#### 4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度は、保育の実践力の向上を図ることのできる1年となった。教職員も保育の質の向上に努力を重ね、子どもたちの心身の発達を助長するため、適切な保育実践を行うことができた。園外の研修会に参加や園内研修の強化もして、教職員が保育者としての専門性を向上しようとする姿勢が見られた。</p> <p>また、本園の特色でもある動物飼育についての研究を継続して行うことができ、子どもたちの命を大切に作る心や思いやりを育むことにつながった。</p> <p>預かり保育の充実も図ることができ、大きな収穫となった。但し、その分、補助教諭の負担の増加と言う課題も発生したので、適宜対応していかなければならない。</p> <p>保護者の養育力の向上にも努めた。外部講師を招いての講座は有益なものだった。しかし、子育てへの意識の低さや参加率の乏しさという現状も垣間見られた。</p> <p>社会を取り巻く様々な状況の変化を受けて、教職員の自然災害への危機管理や不審者対応の意識が高まっていることで、安全管理を強化できたことも良かった点である。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者の資質や専門性の向上	保育の質を上げていくことは、毎年の重要な課題となる。それは、教員一人ひとりの資質や能力、専門性を向上させることに関連してくる。そこで、引き続き、園内外の研修会、保育教材の研究、教員間の情報交換を大切にして、さらなる保育力の向上に努めていきたい。教員の経験年数は様々だが、若い世代もベテランも共に学ぶ姿勢をもって、教員全体でチームワークを大切にしながら保育に携わっていきたい。また、教員のそれぞれ持ち合わせている個性や得意とする部分を尊重し、のびのびと保育ができるようにしていきたい。そのためにも園長、副園長、主任が、教員一人ひとりの思いに寄り添い、働きやすい環境作りに努めていきたいと思う。
動物飼育活動の実践と探究	今後も目白大学の井門先生との共同研究「動物飼育の研究」を継続していきたい。うさぎやヤギ、チャボの研究にも広げていき、子どもにとっても適切な飼育環境を探究していきたい。また、こども動物自然公園と提携も継続し、飼育員によるお話し会などを実施して、子どもたちの動物への興味関心を高めていきたい。さらには10年以上、園長と親交のあるプロ・ナチュラリスト佐々木洋先生からも自然に対する知識を学び、園内の自然環境の構成や保育実践に取り入れていきたい。
室内環境の充実と環境構成	豊かな自然環境に恵まれ、戸外の環境はとても充実しているが、室内での遊び環境は乏しい面がある。夏の猛暑日や雨の日に備えて、ホールの遊び環境を整える必要があるので、発散して遊べる遊具や教具の整備をしていきたい。
課外教室の新設と充実	時代のニーズに合わせて、課外教室の新設や充実を図りたい。今まで20年以上の間、(株)カワイ楽器と提携して実施してきたが、ひさみ幼稚園独自の習い事を創設していきたい。具体的には、英語教室と習字教室を新たに設けて、希望する子どもたち(幼児と児童)の各分野でのスキルアップに尽力していきたい。
安全管理面の強化	近年、日本で大地震が起こり得るという予測を多く耳にする。引き続き、園でも地震・火災避難訓練を実施していきたい。また、保育においても子どもの防災意識を高めていく必要がある。消防署とも連携し、火災避難訓練も引き続き力を入れていきたい。また昨今、幼い子どもが犠牲になる事故や事件が多発しているため、教員一人ひとりが安全管理や防犯対策への意識を高めることが大切となる。

# 学校評価シート（令和6年度分 園関係者評価）

ひさみ幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和 8 年 5 月 30 日（土）

18:00 ~ 19:00

出席者：評価委員長

保護者 学校評議員 地元企業関係者

教育関係者

## 1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・設定した目標は、遊び中心ののびのび保育を重視し、非認知能力の育成を重視している点は、幼児の心身の発達にとって相応しいと思われるので、最適だと思われる。
- ・目標や計画は、幼児への適切な援助に重きを置いている点が、「子どもの成長」を最も大切としているため、適切だと思われる。
- ・評価項目の設定も、本園の特色をより発展させ、現在の教育でキーワードとなっている面を積極的に取り入れている点が適切だと思われる。
- ・評価項目の達成状況について、丁寧に振り返りができていると思う。

## 2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・概ね適切だと思われる。
- ・内容に具体性がある点が適していると思われる。

## 3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・各項目ともに、取り組むべき課題が挙げられる点が望ましい。
- ・教員の専門性向上を掲げる点は、最重要なので適切だと思われる。
- ・自己評価で設定した評価項目について、とても具体的で適している。但し、もう少し簡潔にしても良いと思われる。

## 4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・概ね適切だと思われる。
- ・評価結果から、園の特色や課題、社会状況の変化など多面的に捉えて、保育実践に落とし込もうとしている点がよいと思われる。